

各事業における 15 期の目標

本学会では、長期目標（～18期）として「日本国内での実践的スポーツ栄養学研究の基盤づくりと発展」を掲げ、中期目標（～16期）を「実践活動に力を入れ、その活動報告を発信すること」「スポーツ現場に還元できるデータの蓄積」「日本人選手の栄養学研究の蓄積」とし、理事、委員会を中心として事業を推進してまいります。中期目標を達成するための各委員会における15期の事業到達目標を下表にお示しいたしました。会員のみなさまにはご理解いただくとともに、ご協力いただくことをお願いいたします。なお、今期の事業到達目標における振り返りも会員のみなさまにご報告することとします。

委員会名	中期的目標（～16期）	15期の事業到達目標
研究誌編集委員会	研究と実践活動の両方の報告を含む独自性のある学会誌としてのプレゼンス向上	<ul style="list-style-type: none">・第16号の総掲載数：25～30本（実践活動報告：5～10本）・研究・教育支援事業運営委員会と協力し、研究誌の早期公開として公表する。
研究・教育支援事業運営委員会	実践活動報告の発信にむけた各種講習会による支援体制づくり スポーツ現場に還元できるエビデンス構築のための体制づくり	<ul style="list-style-type: none">・研究誌編集委員会と協力し、2022年5月に実践活動報告/症例報告のショートレポートをまとめ、早期に公開する（ショートレポートを5本程度掲載）。・16期に新たな学会プロジェクトを開始できるような土台・基盤作りを行う。・スポーツ栄養学の基盤を高めるための情報提供（更新研修・セミナー各2回）を行う。
渉外委員会	スポーツ関連団体との連携体制の構築及び、合同イベント開催の定着	<ul style="list-style-type: none">・連携機関等からのイベント開催の情報共有・発信・他学会と連携した合同イベントの開催。学会員への情報提供と参加の促進。

国際交流委員会	国際交流推進に関わる事業の周知と参加する会員を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国外スポーツ栄養関連団体からの情報発信などの活動を定期的に行うと共に連携のあり方の見直しを図る。 ・ 国際交流活動を広めるための方策を検討し、実施する。
認定事業運営委員会	質の高い公認スポーツ栄養士をより多く輩出し、養成講習会の新カリキュラムへの調整を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質の高い公認スポーツ栄養士をより多く輩出する。 ・ 関連事業の実施における効率化を図る。 <p>ベーシック講習会部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催方法の検討とその運営に関するシステム化をはかる。
ホームページ・広報委員会	ホームページを通じた学会活動情報発信の充実をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規サイトの公開 ・ Facebook の情報発信基盤の構築 ・ 現サイトの安定的情報発信